
好きです、その返事は？

夢月 那由紀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

好きです、その返事は？

【Nコード】

N8481G

【作者名】

夢月 那由紀

【あらすじ】

告白する、と決心した受験を控える女の子。その気持ちを男の子はどう受け止めるのか。

(前書き)

思い付いたものをただ並べただけです。

ぐだぐだで意味が分かりません。

要らない言葉まで入っているかもしれない。

運命というものが本当にあるならば、この出会いは、別れは、運命なのだろうか？

神様が本当にいるのならば、そして、運命を神様が握っているならば、

こんな運命を与えた神様——貴方を恨みます…

出会いがあるから別れがある。

誰かに聞いた覚えがある。

逆に別れがあるから出会いもある。

私の出会いは唐突で、ジェットコースターのように速く、通り過ぎて行った。

「今日、告白する！」

彼を好きになって約2年。

結構長い片思い。

来年は受験だからもう、はじめをつけておきたかった。

だから、友達に宣言したんだ。

『告白する』と…

後悔することになるのとは思っていなかったけれど。

呼び出しは手紙をこっそり下駄箱に忍ばせておいて、放課後の屋上に呼び出した。

緊張は一時間一時間の授業を終える度に、高まる。

「好きです！」

たったの4文字に込めた私の想い。

こんなので伝わるとは思っていない。

けれど、これが今は精一杯の気持ち。
気持ちが上手く、伝えられない。
分かってくれるかな？

「お前自分のこと分かってんの？」

「え…？」

その言葉は、よく分からなかった。

「オレがお前と付き合うと思う？」

それは嫌いだ、という意だと思った。

「あゝ、違うな。オレはお前は仲の良い女友達と思ってる訳。分かる？」

「…うん」

嫌い、という意ではなかったが、でも好きだというものでもなかった。

曖昧な、友達でいようという意。

複雑な、気持ちになる。

「でも…私には恋愛対象、だったんだよ？」

「うん、ごめん」

その口からは謝罪の言葉なんて聞きたくないよ。

だからせめて、そんな曖昧な言葉じゃなくて、はっきりと断ってよ。
優しいのは、罪だよ。

優しくしないで、望みがないなら、突き放してよ。

冷たく、俺はお前と付き合わない、と。

言って。

じゃないと、諦めなんてつく訳ないじゃん。

「好きなの…」

「オレは…お前とは付き合えない。…好きな奴、いるんだ」
望んだ先の一步奥。

でも、やっと言ってくれた。それでいい。

「言ってくれて、ありがとう」

「は？」

「はつきり、言ってくれて。友達、でいいんでしょ？」

刹那、驚きの色を宿した瞳。

「ああ、友達で」

望んでいなかった言葉まで彼は吐いていった。

これでいい。

これで諦めはつくはずだから：

「う…」

溢れてくる涙。

どんどんどんどん、溢れてくる。

自分で言ったことなのに、こんなにも辛いなんて思わなかった。
止まることを知らない涙に私は声を出して泣いた。

運命というものがあるのなら、これが私の運命だということだ。

幸せなんてない、運命。

この先にもそんなもの信じられないから。

神様が運命を握っているのなら私の運命をこれに決めたのは何故なのか。

「好きだったのに…」

私は貴方を恨んでいいですか？

ねえ、神様。

(後書き)

図々しいですが、評価・感想など頂けたら嬉しいです！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8481g/>

好きです、その返事は？

2010年10月20日17時35分発行